

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)
／原 卓志

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

これまで、教科内容学としての専門分野(国語学)授業を「教室につながる国語学」として捉え、国語学担当教員同士で、学部4年間を見通した国語学カリキュラムを設計し、授業改善と研究に取り組んできた。本年度は、現代語担当教員とのTT授業が先導的・大学改革推進受託事業における試行授業に指定されていることを踏まえ、国語学の専門的な知見を児童・生徒の言語生活に結びつけられることを目指したい。また、受講生が、国語学の学習意義を認識できるような授業を構築していきたい。

2. 点検・評価

国語学の専門的な知見を児童・生徒の日常的な言語生活に結びつけられるような授業を目指し、国語学(現代語)担当教員とのTT授業を前期と後期に実践した。
特に、平成23年度先導的・大学改革推進委託事業「教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究」の一環として、これまで取り組んできた「教室につながる国語学」の授業として、その考え方を発表し、同時に学部3年次生対象「語学・文学総合演習Ⅰ」(国語学担当教員2名のTT)の試行授業を実施し、検討会を行った(5月12日)。
また、古典(古文)学習指導における文法・語彙・表現など国語学的な教材研究が、古典文学の読み深めに結びつけられることを目標として、国語科教育学担当教員とのTT授業を展開した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学生とのコミュニケーションを密にし、各自の抱える学習・就職・生活に関する悩みや問題解決のための支援を積極的に行いたい。
これなでどおり、教員就職に対する支援を積極的に行うが、とりわけ本年は、ストレートマスターの就職支援に重点を置いて取り組みたい。

2. 点検・評価

授業内外において、学生には積極的に声かけを行った。その結果、国語コース所属学生にとどまらず、国語コース以外の学生とも気軽に話ができるような関係を作ることができた。

教員採用試験に向けての支援は、就職委員会委員として就職支援行事に積極的に協力したほか、国語コース所属教員と連携・協力して、自己アピール・模擬授業・集団討論・個人面接・小論文などの支援を個別に行った。その結果、学部卒業生13名のうち、学部学生の採用試験正合格者8名(うち1名は採用猶予措置で大学院進学)、大学院進学者4名、臨時採用1名という実績につながった。

大学院生については、支援を求めてきた院生(1名)については、入念な指導を行い、正合格させることができたが、特に指導を求めてこなかった院生に対しては、就職支援行事(就職委員会主催)以外の指導が行えなかった。院生に対しての支援が、今後の課題として残される。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①醍醐寺宋版一切経に関する第2次調査(3年計画の2年目、科学研究費補助金・分担者として)を6月、8月に行う。
- ②「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」(5年計画の2年目、科学研究費補助金・代表者として)を推進し、美馬市願勝寺の調査を完遂し、所蔵文献目録を公刊する。
- ③平成23年3月に公刊した「臨江山地藏寺所蔵文献目録」の「書名索引」「僧名索引」を作成・公刊するとともに、地藏寺関係の研究を進める。

2. 点検・評価

①醍醐寺宋版一切経に関する2次調査(科学研究費補助金・分担者)では、5・6月に体調を崩したことから、8月の調査に参加したにとどまった。しかし、『醍醐寺宋版一切経目録』刊行に向けての調査自体は順調に進んでおり、最終年度(24年度)に向けて、目録原稿の写真照合と校正作業を行っている。

②(科学研究費補助金・代表者)「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」の一環として昨年度から行ってきた、願勝寺(徳島県美馬市)の所蔵文献調査を終えた。さらに、その調査を基にして『寶壺山願勝寺所蔵文献目録』(全473頁)を作成し、印刷刊行した(24年3月)。

23年12月からは、新たに国伝山地蔵寺(小松島市)の協力を得て、同寺の所蔵文献悉皆調査に着手し、調査を継続している。

③23年3月に刊行した『臨江山地藏寺所蔵文献目録』(全532頁)について、使用の便に資するために「文献索引」「人名索引」「寺名索引」を作成し、補訂作業を終えた目録本体と合わせて、『臨江山地藏寺所蔵文献目録[補訂版]』(全621頁)として印刷刊行した(23年12月)。さらに、これをウェブ上(鳴門教育大学機関リポジトリ)に公開した(24年3月)。また、地藏寺所蔵文献研究の一環として、「臨江山地藏寺所蔵願密書籍目録」についてをまとめ、鳴門教育大学研究紀要第27巻に発表した(24年3月)。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 教育研究評議会、学生支援委員会、就職委員会の委員として円滑な大学運営に積極的に協力する。
- 創立30周年記念誌編集委員会、全国学校教育実践顕彰事業実行委員会(仮)の委員として、本学創立30周年事業に協力する。

2. 点検・評価

○教育研究評議会、学生支援委員会、就職委員会の委員として、委員会などの会議や、就職支援行事などに積極的に参加した。特に就職委員会副委員長として、堺市・大阪市・岐阜県・愛知県・京都府・京都市・広島県・岡山県・神戸市・兵庫県の教育委員会を訪問し、教員採用についての情報収集を行った。

○創立30周年記念誌編集委員会、全国学校教育実践顕彰事業実行委員会の委員として協力し、30周年誌の編集・校正に従事するとともに、第1回全国学校教育実践顕彰事業の実行に協力した。現在、第2回全国学校教育実践顕彰事業の実践を募集している。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 学部・附属国語科連絡協議会に所属し, 附属学校園の教員と連携して, 実地教育の質の向上に向けて学生の指導を行う。
- 教育委員会, 小・中・高等学校などからの協力要請には, 積極的に応える。

2. 点検・評価

- 学部・附属国語科連絡協議会に所属し, 附属学校園の教員と連携して実地教育における学生指導を行った。
- 第58回小学校教育研究会(附属小学校、24年1月)で公開授業の助言者をつとめた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 科学研究費補助金の交付を受けて、『臨江山地藏寺所蔵文献目録[補訂版]』と『寶壺山願勝寺所蔵文献目録』の2冊を印刷刊行したこと、及び、『臨江山地藏寺所蔵文献目録[補訂版]』をウェブ上(鳴門教育大学 機関リポジトリ)に公開したこと。
- 創立30周年記念誌を編集委員として刊行したこと、及び、第1回全国学校教育実践顕彰事業の実行委員長として開催したこと。